

# 1984 信州大学山岳会フル・テッド・ビーフ登山隊 後報告書

[6501m]

## 1. 隊員

隊長・装備	細川 和幸 (22)	A5年
食糧	藤田 正弘 (21)	A4年
会計・渉外	森 光 (20)	L2年
記録・医療	南谷 道弘 (20)	A2年
梱包・輸送	渡辺 和文 (23)	A4年
コック	スッパ	

## 2. 行動概要

### ・カトマンドゥ準備 (4/7 ~ 4/15, 9日間)

今回はほとんどの装備・食糧をカトマンドゥで揃える事とし、別送品なしで出発した。ガスボンベや小麦・乾燥食品など特殊なもの以外はカトマンドゥで揃うし、その方がかなり安くすむ。

今回思わぬ苦勞をしたのは、テボしてあった装備の半分以上が行方不明になっており、テント・キッチン具を貸りなければならなかった事である。結局、京大・信大などの学術調査隊の所に貸してあったのだが、今後、こういう不手際は避けたいものである。

### ・キャラバン (4/17 ~ 4/23, 7日間)

4/16 カトマンドゥよりポカラに移動。アンナエリア、しかもシーズンとあってポーターが少ないせいから 35 Re/人・日 でしたが動いてくれない。

4/17 ① 10名のポーターを連れ出発。フェディまでジープをチャーターし (5000Rs) フェディより歩く。今日はタンクスまで。

4/18 ① タンクス ~ ランドルン

4/19 ① ランドルンよりモティゴラ浴いに(三ウリ・ヒパールキ至由)チャムロンへ。

4/20 ① 細川、藤田が西アンナ氷河入口のゴルジュ偵察のためテオラリホテルまで。他はヒマラヤンロッテまで。

4/21 ① 細川、藤田は西アンナゴルジュヘルト工作に向う。ゴルジュはフレには Fix 1ヶ所、渡渉2回 と思ったより苦勞せずに通過できた。その先右岸のサイドモレーンを 4300m 地点まで偵察に向った。その後、マチャB.C.に戻る。本隊はマチャB.C.まで。

4/22 ① 昨日午後より降り積った雪のせいで、ポーターが全員帰ると言い出した。西アンナのゴルジュで昔ポーターが死んでいるのモ気にかかるのだろうか? ましてや雪もあるし、ポーター達はガンとして動こうとしない。結局、アンナB.C.にB.C.をチェンジし、

交渉したが、この山を止め、最後は、シューズウェア、サンガラスを貸す事を条件に4人だけ残ってくれた。今日は隊員とポーター4人でアンナB・Cに荷上げ、再びマチャB・Cに。ル―トは南稜に変更  
 4/23 ①⊕ 今日はいよいよB・C入り。細川、渡辺は、西アンナ、ゴルジュのFixを回収し、そのまゝ南アンナ氷河を溯りB・C入り。

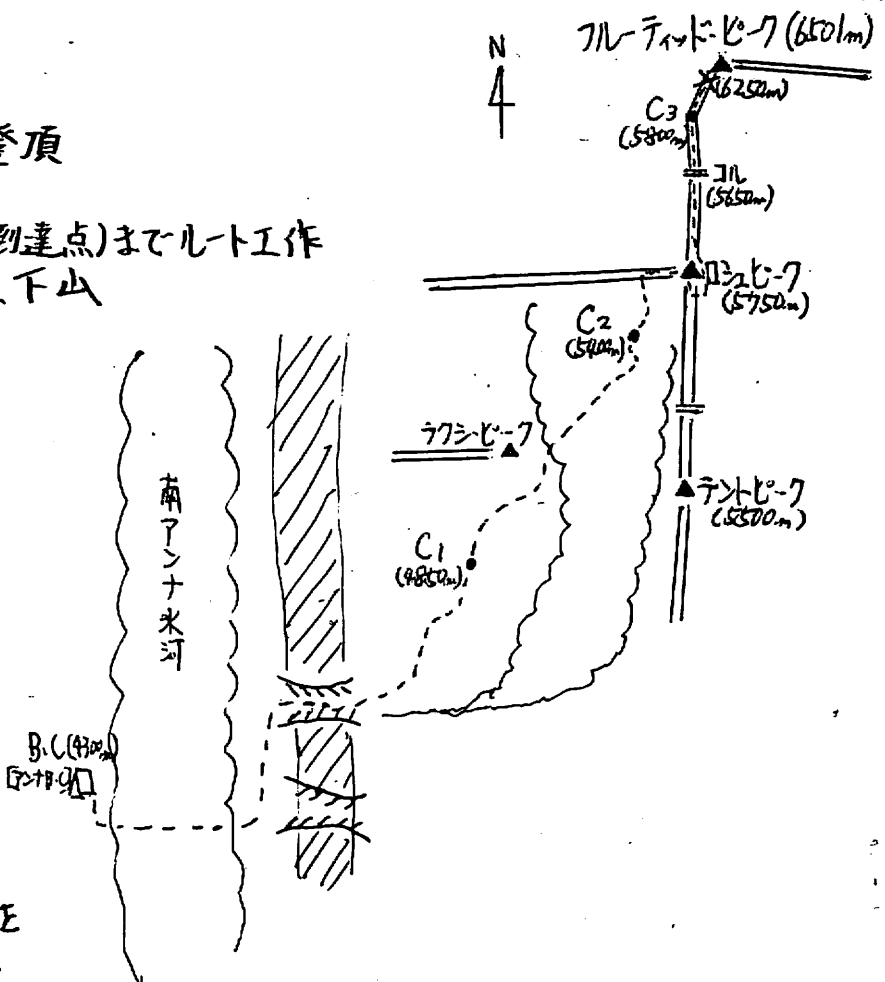
・登山活動 (4/29 ~ 5/11 18日間)

- 概要
- 4/23 B・C 完成
  - 4/26 C1 完成
  - 4/30 C2 完成
  - 5/1 ロシュピーク 登頂
  - 5/5 C3 完成
  - 5/8 6250m (最高到達点) までル―ト工作
  - 5/10 断念決定、下山
  - 5/11 B・C 着。

ル―ト状況

B・CとしてアンナB・Cの小屋より5分程下った所から南アンナ氷河に降り、トラバース。対岸のサイドモレーンに登り、20分程溯るとゴルジュを有するルンセと出会う。このルンセに登り、滝の出る手前で左手の急傾斜な草地に取付きこれを登る。上に出てからはサイドモレーンの屋根状の所を左へ左へ(ラクシピーク方向へ)と

ル―トをとり、4850mにC1を設ける。その先もラクシピーク方向へル―トをとり、ラクシピーク右、氷河左の雪壁を登って上部フラットに出る。このフラットを1R程進むと次第に氷河も荒れきて、Fix 50mで通過し、ロシュピーク直下、5400m地点にC2を建設する。C2よりロシュピークへは、左肩に伸びる岩稜右側の急な雪壁をFix 50m x 2Pで肩まで登り、肩よりさらにFix 200mでロシュピーク山頂に至る。尚、肩までの雪壁は雪崩の危険性、有り。ロシュ先は、一担テントピークへの稜線を20m程戻り、西アンナ氷河側へ

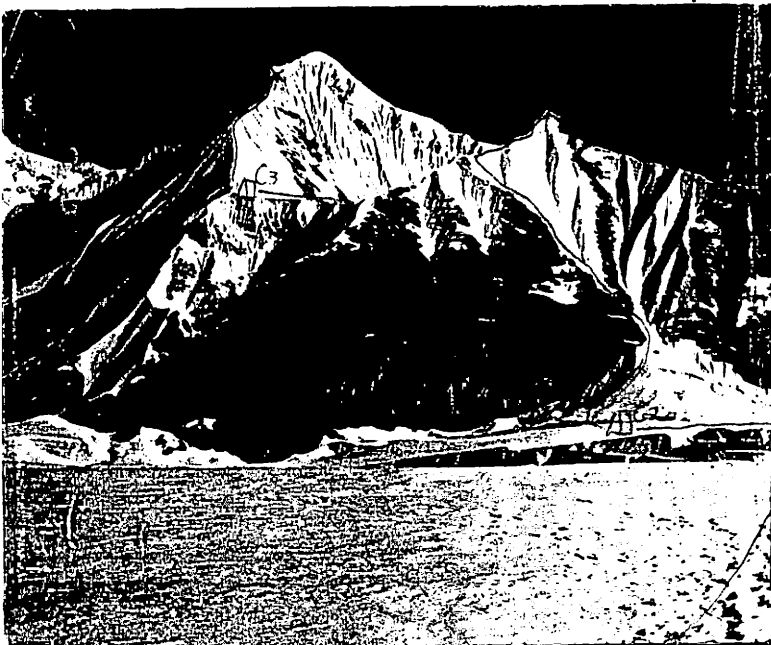


下降後 (Fix 50m). コル方面へトラバースする。コルまでは、稜線沿いに西アンナ氷河側をトラバースするように下る。コルより C3 までは、1ヶ所急な雪壁を Fix 100m で登る他は、トラバース気味に西アンナ氷河側を行く。南稜末端 5800m の平地に C3 建設。C3 より 30 分程先にテントサイトがあるが、そこまで Fix 50m で行く。そこから徐々に傾斜が増し、5900m 付近よりフルアイスに変わってくる。50~70° の氷壁をダブルアックスで進む (Fix 50m) と、傾斜がやや落ち、右の方の氷のリッジが続いている。この 40~60° くらいのリッジを Fix 200m 程で進むと傾斜がさらに増し、60~70° の氷のリッジになる。このリッジを悪戦苦闘して Fix 100m 張り、傾斜の落ちる 6250m で全ての Fix を張り終えた。  
 1日休養後、1ヒバーク覚悟でアタックの予定だったがアタック当日、強風、そして食糧も残り少なかったのを断念、下山に移った。

使用 フィ ック ス	~ C2	50m	
	C2 ~ □シュピーク	300m	
	□シュ ~ コル	50m	
	コル ~ C3	100m	(800m の Fix を張り換えた.)
	C3 ~ 6250m	500m	
		のべ計 1000m	

(右) フル-ティドピーク南稜 (C3より) →

(下) □シュピークとフル-ティドピーク (上部プラトーより) ↓



# 3. 行動表 H:細川 F:藤田 M:森 K:角谷 W:渡辺

アBC アBC C<sub>1</sub> C<sub>2</sub> 肩 口シ ヌル C<sub>3</sub> 605<sub>m</sub> 615<sub>m</sub> 625<sub>m</sub>

4/24 ①	F	H-M K-W							
4/25 ①	W	H-M K	F						
4/26 ①	X	H-M K-F	W						
4/27 ①		H-M F-K-W							
4/28 ①	F	H-M K-W							
4/29 ①	F	H-M K-W							
4/30 ①		H-M K-W F							
5/1 ①		H-M F-K-W							
5/2 ①		H-M K F-W							
5/3 ①		H-F-M K-W							
5/4 ①		H-F K-M-W							
5/5 ①		H-F K W	M						
5/6 ①		H-F M-K-W							
5/7 ①		H-F K	M-W						
5/8 ①		H-F M	W						
5/9 ①		H-F-M-K	W						
5/10 ①	M-F W	H-K							
5/11 ①	H-K	F-M-K							

(記細川)